

令和元年度 学校自己評価報告書

1 地域との連携・協働による教育

考察等	◎保護者や地域の方に対して誠意をもって対応している。学校支援地域本部としての取組も充実し、学校支援コーディネーターとの連携や学校運営委員会への関心など、地域の方々との協力も大切にしている。子どもの成長やよりよい教育活動を実践するために、これからも保護者との連携や地域人材の活用などが重要であると考えている。 ○PTAや地域との連携については、部活動等を引率しながら地域行事に参加することが多く、協力的である。
改善策	○PTA活動や地域行事の開催の周知をさらに徹底するとともに、保護者や地域の様子を把握し、子どもの成長につながるよい機会と捉えて、可能な限りの協力を促す。

2 「世田谷9年教育」で実現する質の高い教育の推進

(1) 学習指導

考察等	◎新学習指導要領の内容を意識し、生徒自身がアクティブに取り組んでいる授業がほとんどである。「主体的・協働的な学習」をテーマに研究を継続している成果である。 ○教材研究や指導方法工夫改善に対する意識をさらに高めていく。
改善策	○今後も継続して、各授業のねらいを明確にしながら、ICTの活用などにより分かりやすい授業を実践し、対話的な学習を積極的に取り入れ、実施する。

(2) 特別活動・学校行事

考察等	◎学校行事への取組の意識の高さは伝統となっている。縦のつながりも意識を高めている要員のひとつとなっている。行事を通して生徒自らが考え、行動する場面を多く設定したことで、生徒は自己有用感が高まり、達成感や充実感を感じている。 ○日頃の学級活動のさらなる充実や自治活動による生徒の実践力の伸長をめざす。
改善策	○「学級づくりは、人間関係づくり」を徹底し、いじめや不登校の未然防止と対応力の強化を図る。また、生徒会活動における集団活動、校内や地域でのボランティア活動を通して、学校及び地域社会の一員としての自覚を高める。

(3) キャリア教育・進路指導

考察等	◎職業講話や職業体験を通して、すべての生徒が自己の適性を考えたり職業の苦労ややりがいについて学ぶことができています。また、この取組についてホームページや学年通信で広報している。
-----	--

(4) 世田谷9年教育

考察等	○2年間にわたる研究を通して、発達段階に応じたNIEの取組や演劇的手法を用いた表現を授業に取り入れ、世田谷9年教育を学舎を挙げて実践した。
改善策	○学舎の4校が互いの長所や課題を話し合い、学習課題の改善に向けて、児童・生徒の育成をめざす。小学校で身につけてきたNIEへの取組や演劇的手法を用いた表現を中学校でさらに応用し、学習の深まりにつなげる実践を継続して行う。

(5) 特別支援教育

考察等	○個々の生徒の特性を把握し、寄り添った指導を心掛けている。すまいるルームとの連携を深め、個に応じた丁寧な対応を進めている。
改善策	○研修等を通して、発達障害への理解を深めるとともに、インクルーシブ教育や合理的配慮について実践的な対応を校内委員会等で検討し、組織的な対応を徹底する。

3 信頼と誇りのもてる学校づくり

考察等	◎保護者や地域の意見を計画的に収集・分析して迅速な改善に努め、全教職員が授業や生徒にかかわる活動を大切にしている。多くの教員がホームページを更新し、学年だよりを作成するなど情報発信を重要視し、信頼される学校づくりに取り組んでいる。
-----	---

4 安全安心と学びを充実する教育環境の整備

考察等	◎生徒にとって安心かつ安全で、充実した学習環境が整うよう点検や管理を適切に行い、教育環境の整備に努めていく。
-----	--